

SHIMOIGUSA LIBRARY

名作  
文庫

いまこそ教養!

名作  
文庫

# 「名作文庫」通信



新刊案内 .....	P1
特集展示【文豪動物展】 .....	P2
名作文庫いざない図書 .....	P3-P4
作家紹介【ジャック・ロンドン】 .....	P5-P6

名作  
文庫

令和元年 秋号

名作  
文庫

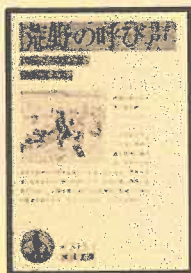
SHIMOIGUSA LIBRARY

放浪と冒険の中で見た  
世界の美しさと残酷さ

## 著者の最高傑作

判事の屋敷にセントバーナードと  
シェパードの混血として生まれた  
犬「バック」は、盗みだされてア  
ラスカヘソリ犬として売られる。  
そこで待っていたのは、厳寒と飢  
え、厳しい労働の生活だった。  
容赦のない大自然の厳しさと、人  
間のふるつムチの中で、鍛え上げ  
られたバックは、ついに野生へと  
目覚める。荒野を自由に生きるバ  
ックと人間との愛憎をドラマチッ  
クに描く。

### 荒野の呼び声



ジャック・ロンドン／著  
海保 直夫／訳  
岩波文庫／刊

## 著者渾身のルポルタージュ

エドワード七世の戴冠式でにぎわうロンド  
ンの貧民街「イーストエンド」に潜入した  
ジャック・ロンドンによる詳細なレポート。  
自らも貧しい生活を送ってきた彼が、底辺  
に暮らす人々の姿を克明に描く。そこで目  
にした悲惨な状況は、彼の想像を絶するも  
のであり、欧米の  
格差社会の現実を  
世に問いかけた。  
本書収録の写真は  
著者撮影の貴重な  
もの。

### どん底の人々

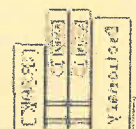


ジャック・ロンドン／著  
行方 昭夫／訳  
岩波文庫／刊



## 新しく買った本

こちらで紹介しているのは所蔵図書の一部です。



### 脂肪のかたまり

モーパッサン／作 高山 鉄男／訳 岩波文庫／刊

普仏戦争を背景に、ブルジョアや貴族といった連中と、  
一人の娼婦とを対置し、人間のもつ残忍なまでの自己中  
心主義・偽善を冷徹に描いた名作。  
モーパッサンの出世作。



### 火刑法廷

ジョン・テイクソン・カー／著 加藤 卓朗／訳  
ハヤカワ・ミステリ文庫／刊

広大な敷地を所有するデスパード家の当主を襲った不可  
解な事件。  
消える人影、死体の消失、毒殺魔の伝説…。  
不気味な雰囲気をはらんで展開するミステリー。



### 宇宙戦争

H・G・ウェルズ／著 中村 謙／訳  
創元SF文庫／刊

ある晩、人々は緑色の流れ星を目撃する。だがそれは単  
なる流れ星ではなかった。  
落下したその物体から現れたのは不気味な触手を持つ奇  
怪な生物——火星人の地球侵略が始まった。



特集

# 文豪動物展

名作のなかには動物が出てくるものが数多くあります。  
動物が好きな方に楽しんでいただけるよう、様々な動物文学を集めました。



**動物農場 おとぎばなし**  
ショージ・オーウェル／著  
川端康雄／訳 岩波文庫／刊  
飲んだくれの農場主を追い出して動物たちが理想的な共和国を築こうとするが…。  
全体主義やスターリン主義への痛烈な批判を寓話的に描いた物語。



## 十二支考 (上・下)

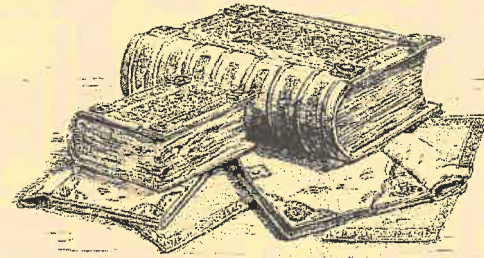
南方熊楠／著 岩波文庫／刊

犬と猫はなぜ仲が悪いのか。人や他の動物の寿命はどのように決まったか。  
柳田国男を驚嘆させた熊楠が、干支の動物を古今東西の逸話をふまえて語る。



# 名作文庫 | 1 ぞない | 現代図書

名作文庫は敷居が高い、難しそう、などなど…今まで名作文庫を読んだことのない方や、もっと名作文庫を楽しみたい方に、名作文庫に1ぞなう現代本を紹介します。



おすすめ1ぞない図書  
**文豪の猫**

アリソン・ナスタシ／著  
浦谷 計子／訳 エクスナレッジ／刊



## 猫を愛した古今の作家を紹介

いつの世も猫を愛した文豪は数知れない。本書は様々な国、様々な時代の猫好き作家を写真とともに紹介する一冊。  
本書には紹介されていないが、谷崎潤一郎、内田百閒、室生犀星、三島由紀夫など日本の文豪たちも猫を愛した。  
猫の不思議な魅力は、彼らの作品の中でも鮮やかに描写される。猫好きもそうでない方も、作家と猫の魅力に触れてみませんか？

## 仔鹿物語

ローリングス／著 土屋京子／訳 光文社古典新訳文庫／刊

舞台は十九世紀後半のフロリダ。自然豊かな土地で  
厳しい開墾生活を送るバスター一家。  
美しくも苛酷な自然の中で、たくましく生きる人々の姿を力強く描いた名作。

理想の自由を描き出す

# ジャック・ロンドン



この作家の功績

放浪時代にも新聞社などに様々な記事を寄稿していたが、小説「狼の子」の出版をきっかけに、「海の狼」「白い牙」などを発表。野生と人間の生活との間で変化する動物たちをこまやかに描写し、自由とは、生きるとはどういうことかを追求する作品を数多く残している。

また、社会主義に傾倒し、欧米の格差社会を批判。

「ジャック・ロンドン大予言」や「アメリカ浮浪記」など、社会の現実と、国家の掲げる理想とのギャップを描き続けた。

## 今号の作家紹介

Jack London (ジャック・ロンドン)

出生名：ジョン・グリフィス・チェニー

(John Griffith Chaney)

1876年1月12日 - 1916年11月22日

アイルランドに私生児として生まれる。貧しい家庭を支えるため、幼少期から仕事を転々とした。その後、各地を放浪し、カリフォルニア大学バークレー校に入学するも中退。アザラシ猟の船員や、日露戦争時の特派員として来日したこともある。このほか、アラスカでゴールドラッシュに参加するなど、多くの社会経験を積む。後にそれまでの経験を生かして数々の名作を残した。

1900年に「狼の子」を執筆し流行作家となる。しかし成功者としての顔と、底辺を生きてきた自身のギャップに苦しみ、四十歳にして、自宅にてモルヒネにより自死。

## 猫を愛した文豪たちと作品

「アーネスト

ヘミングウェイ」

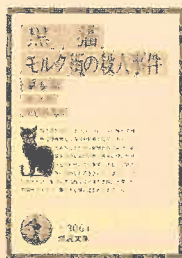
「猫は絶対的な正直さを持っている」「ヘミングウェイの残した言葉は、彼の並みならぬ猫好きの表れ。」「雨のなかの猫」は、猫の魅力をこつそり忍ばせた小品。



ヘミングウェイ／著  
西崎 憲／編訳  
ちくま文庫／刊

「エドガー・アラン・ポー」

「猫のようにミステリアスな作品を書けたらいいのだ」と語った、ゴシックミステリの巨匠・ポー。彼もまた猫の魅力を知る作家である。「黒猫」に登場する黒猫は、愛らしいが時には妖しげな猫を見事に描き出している。



ポオ／著  
中野好夫／訳  
岩波文庫／刊

「内田 百閒」

「ノラや」は行方不明になった猫・ノラを探す百閒の涙と憔悴の記録。新聞に広告をのせ、警察に捜索願を出す。ノラの帰ってくる日を持ち続けるが……。飼い猫への愛が詰まった一冊。



内田 百閒／著  
ちくま文庫／刊





# SHIMOIGUSA LIBRARY



下井草図書館には、「名作文庫」の棚があります。  
一度は読んでおきたい、古今東西の名著名作を、  
文庫版、新書版で集めた本棚です。



季刊名作文庫通信 3.6.9.12 月発行

MASTERPIECE COLLECTION

